

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.40 平成17年8月1日発行

第1回災害・救急国際シンポジウム（愛知）の報告

去る7月17日（日）愛知医科大学において、愛知万博記念災害・救急医療研究会の主催により「第1回災害・救急国際シンポジウム」が開催されました。本シンポジウムの開催に関しては、支部ホームページ上で皆さんにお知らせしましたが、どなたからも出席の申し出がありませんでしたので、上條委員長の出席のみとなりました。上條委員長から簡単な報告をいただきました。

「記念すべき第1回に出席できたことを大変誇りに思う大会でした。それは、国際蘇生連絡協議会（ILCOR）の構成員となるべく、アジア蘇生協議会（RCA）の調印式が、この大会のなかで行われたからです。日本・台湾・韓国・シンガポールの各国の蘇生団体の代表者による調印が、とても緊張したなかで行われました。アジア蘇生協議会が正式に発足したことにより、今後は事務レベルでの手続きが進められ、近いうちに国際蘇生連絡協議会の正式なメンバーとなります。また、大会ではJR福知山線の脱線事故について、2005ガイドラインの動向、愛知万博における救命の連鎖、各国におけるchain of survivalの現状等の発表があり、充実した一日を過ごすことができました。当日は、愛知万博開幕以来の人出を記録し、会場周辺の交通状況は一日中麻痺状態でした。」

「伊東市海のボランティア」活躍中 ～利用者の安全確保に一役～

伊東市「海のボランティア」が7月16日（土）から始まりました。海水浴場利用者の事故防止のために、伊東市を中心とした本団団員が活躍中です。今回の「海のボランティア」の連絡調整を担当している柳田団員から一言報告いただきました。

「ボランティア“私は何をすればいいの？”今回、自分の意に反して海のボランティアをやることになり戸惑いは隠せません。仕事柄、海のことは一般の方よりも解っているつもりです。だからこそ、怖い、やりたくない、どうせ海では何もできない、すべての否定的な考えと裏腹な現場に出るという行動は、仕事として出ている人の中で、何かしなければという焦りとなってしまいます。そんな中でも、もの見方一つで物事は変わっていきます。ビーチボールが流された時に追いかけて泳ぐ人、ここに潜む危険！切り傷が多いのはいったいどこで？どちらも「事故防止」が可能です。このときライフセーバーへの一言が、私の重要な活動の1つです。

やはり“参加する”これがボランティアの第1歩ですね。とは言え手助けをしてくれる仲間がいてのこと、今回も快く協力を申し出てくれた仲間感謝を申し上げたいと思います。協力の輪が続くことを願って・・・、やりとげたときの喜びを夢見て・・・、そして安全な毎日を誓って・・・。」

皆さんも時間を見つけて「海のボランティア」に御協力ください、詳しくは支部ホームページで。

今月の眼（見た）・耳（聴いた）！「水の事故防止」

梅雨は明け、子どもたちは夏休みに入り、にぎやかな声と共に「プール・海・レジャー・・・」と開放感や水への恋しさが増すと同時に、暑さと根競べをするシーズンになりました。

そうなると例年、水の事故がテレビ・ラジオ・新聞等で報道されるようになります。水の事故は、水泳場だけで起こるとは限りません。日常生活の中で、思わぬ水の事故に遭遇することがしばしばあります。日常生活には水は不可欠なものであり、水無しの生活は考えられません。しかしひとつ間違えば、水は直ちに生命にかかわるような事故の原因になり得ます。コップ一杯の水で・・・口と鼻が覆われてしまうだけでも事故は起きます。例年より、一件でも事故が少ないことを祈ります。

静岡県赤十字安全奉仕団では、赤十字を理解し奉仕活動に協力していただける方（特殊奉仕団のため一定の有資格者を対象）を募集しています。入団希望の方は、県支部までお問い合わせください。